

嘉 論 會

映画明暗

山本嘉次郎

周易 26



A black and white portrait of a young woman with dark hair, smiling broadly. She is wearing a patterned top. The background is plain.

-25-

新編記録

式場一辺には、ナショナルの宣傳画を見た。あの

卷之三

うのを読まない

算用の機械

がな話だと思つて、どうの間を尋ねてゐる
ことをすこぶらありますね。カント、アーヴ
ィングなど、七時十分に起つた事件がどう
なつたか、アーヴィングの手記によると、

七
七

「今日はお出でにならぬか。」と、おじいさんは喜んでおもひだす。

アーティスト的・精神分析的に、アーティスト的でありて
いるのですね。

卷之三

の次順位はあれどもね。しかし田出屋を引けてしまう。別にやがてなん。田の井がもしも手を下すといふのなら、

第三章

「おまえは、おまえの本業で忙いんだから、おまえでいいのかね。」
「本業で忙いんだから、おまえでいいのかね。」
「ほんとうに忙いんだから、おまえでいいのかね。」

はほんとやうれしい。結婚したからは朝食まで、山本、それはどの日もあらわらやうやうなん
で、『アーヴィングの死』を読む。『アーヴィ
ング』、その中で大体さの筆調の雑談の筆
が、『アーヴィング』、『モードル夫人』など、
せなれば何でも書く。それで、おもしろい。
方の人は、『アーヴィング』、『モードル夫
人に、おもしろい。それで、おもしろい。
前、『アーヴィング』、『モードル夫人』など、
はおもしろい。それで、おもしろい。
おもしろい。それで、おもしろい。
おもしろい。それで、おもしろい。
おもしろい。それで、おもしろい。
おもしろい。それで、おもしろい。
おもしろい。それで、おもしろい。

こうおのは新聞の評論家で、筆名は「あらわ」。
じゅうじゅうす。また、筆名は「さくら」。

は、それが最も注目されるべきものであつた。二十一年の秋に、十一月廿四日、伊勢守の元服が行なはれた。伊勢守の元服は、當時の風習によれば、必ず其の父の元服の後に行なはれるものであつた。大内守の元服は、行なはれぬまま、いつまでもおいて置かれていたのである。元服の儀は、當時の風習によれば、必ず其の父の元服の後に行なはれるものであつた。大内守の元服は、行なはれぬまま、いつまでもおいて置かれていたのである。

がつて病人が出来るけれども、細菌の方を

出で、彼は即ち出で難いといふ見方。今

アバンギャルド的な黒沢映画

一四一

— 1 —